

# 高崎山 だより

No.94

takasakiyama dayori  
2007.10.1

おさるガイドがおしえてくれる  
高崎山のおんなこと、こんなこと。

高崎山が夕焼け色に染まる季節が来た。

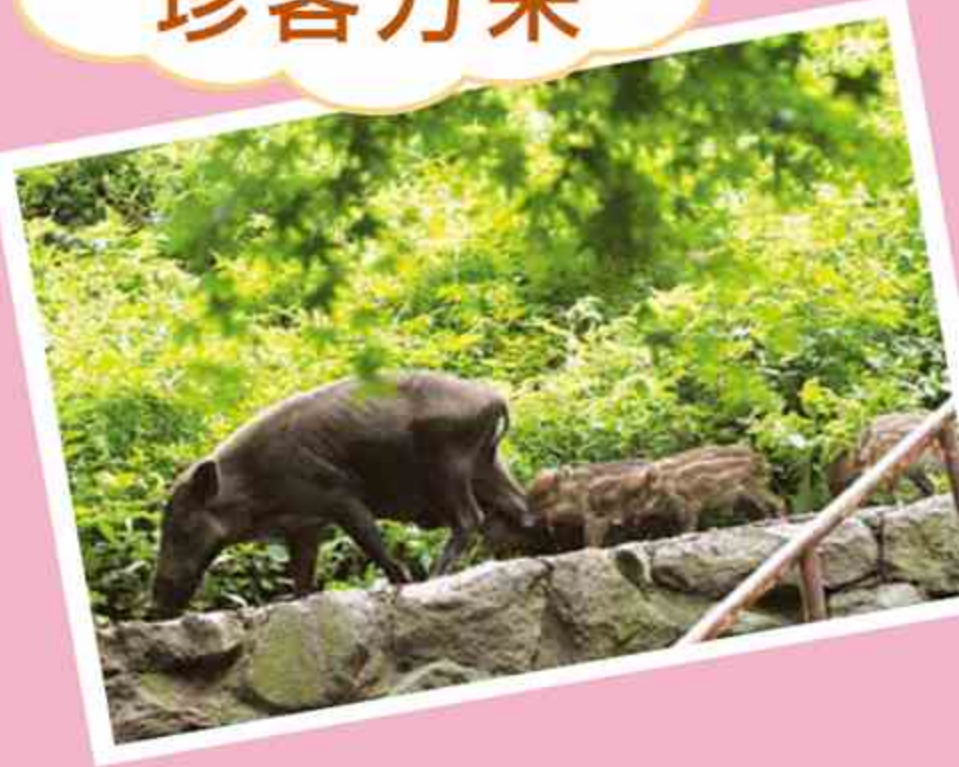


国立公園

高崎山  
自然動物園

「ターバン」と2頭のゴザル

ちん きゃく ばん らい  
珍客万来



9月中旬の夕方、高崎山のサル寄せ場にイノシシの親子が現れました。母親に5頭の子供がついて歩いています。

お客様の前にサルとイノシシの姿が同時に見られる珍しい現象が起こりました。

高崎山はイノシシが多く生息していますが、寄せ場に現れたのは去年以来の出来事！

ただ、イノシシと一緒にいるサルの姿はなかなか見ることが出来ません。

子ザルは怖がりながらも、そおっと近づいて様子を見ています。

少しさびしかったのは、サルを見に来ているお客様が日ごろ見れないイノシシの子供を見れて感動していることでした。



2 その時です！何も会話をしていない係員3名の心がひとつになりました。(まだお乳を飲んで生活をしてるので、このままお母さんと離れるのは命が危ない)



4 見事に成功です。1人の係員から子ザルを受け取った係員は他のサルから襲われることなく、C群の山までダッシュ！しかも、おかあさんを見つけることが出来ました。一件落着です。日ごろから息が合っている姿が見せられた瞬間でした。

ちゅう もく  
足元に注目

C群・B群に1回ずつ、イモのエサをあげます。イモ取り競争とも言われていて、リヤカーに生の切ったイモを入れて係員が引っ張ります。イモがリヤカーから落ちてきます。それをサルたちが取り合うのです。お客様のほとんどはその迫力を目の前にして、ビックリして目の前を見ているばかり！実はその時、お客様の足元に、弱い子ザルが勝ち取ったイモを取られないように隠れに行くのです。周りを気にしながらも、必死に勝ち取ったイモを夢中に食べている、かわいい子ザルを間近で見ることが出来るチャンスです。イモのエサの後には足元にも注目を!!



# あい 愛のバトンリレー

事件じけんが起きたのは、ある日の午後2時ごろC群とB群こうたいの交替こうたいのときでした。



高崎山保育園

1 ジャンブルジムや滑り台すべがある場所(高崎山保育園)でC群の子ザルたちが遊んでましたが、帰る時間になったので、みんなお母さんが迎えむかに来ました。

ところが、1頭の子ザルが泣いています。お母さんが迎えむかに来ないのです。C群のサルはみんな山に帰っています。お母さんが忘れて行ったのです。高崎山保育園まわの周りは、次のB群のサルたちが変わっています。子ザルは見たことの無いサルを見て泣くばかり。



3 1人が子ザルの保護ほご!

1人がバケツを持って子ザルを中に入れC群の山へ!

1人が子ザルが捕つかまったのを見ていたサルが怒おこってくるので係員あんぜんかくほの安全確保

## サルたちの秋



秋しゅうきょくといえば食欲しょくよくの秋! 山からサル寄せ場に下りてきたサルたちの口くちに注目ちゅうもくをして見ると、ほほ袋ほほに食べ物たべものをたくさん入れています。サルにとってはとても喜よろこばしいことです。ただ、山の中に食べ物たべものが多いと寄せ場のエサは食べなくてもいいみたいで、C群そうたいは早退ちこく・B群ちこくは遅刻ちこくするのです。C群そうたいが早退ちこく・B群ちこくが遅刻ちこくということは……

そうです! サルが寄せ場に1匹もいなくなってしまうのです。

実はすでに敬老けいろうの日に1時間30分、サルのいない時間ができました。そんな時は係員がピーナツをリュックにたくさん入れて呼びに行きます。サルたちにとっては恵めぐみの季節めくでも、係員にとっては頭なやを悩なやませる季節です。



あけび

# 高崎山

# サル物語

以前高崎山だよりなどで紹介し、マスコミにも取り上げられて有名になった迷子の子サル「リズム」のその後を紹介したいと思います。

「ブルース」というおじいさんサルに育ててもらったリズムもすでに3歳になりました。育ての



リズム

親のブルースは昨年さくねんの夏にいなくなりましたが、リズムはその後もスクスクせいちょうと成長し、C群の仲間たちと共に元気に生活しています。リズムもあと2年で大人になります。リズムは女の子ですからきっとかわいい赤ちゃんを産むことになるのでしょうか。今はサル寄せ場の片隅で寂しく生活していますが、いずれ子供たちに囲まれて温かい生活を送る日がくると私たち係員は願っています。



## 「夏休みクイズ大会報告」

今年も行いました〇×子供クイズ大会。毎年大人気です。夏休み44日間で参加してくれた人数は過去最高の3,515名。予想をはるかに上回りました。1回のクイズ大会で100名を超えたことがありませんでしたが、今年は大記録が生まれました。1回のクイズ大会で114名の参加です。これから先も抜かれることがなさそうな記録です。お父さんの言うとおりに動いたら間違えて泣く子。優勝してガッツポーズで喜ぶ子。一番嬉しかったのは、去年のリピーターが多かったことです。来年も盛り上げていきたいと思しますので参加しに来てくださいね。



優勝者

## ちょっと拝見!



### 「句碑」

改札口をくぐり「うさぎ道」コースを50m程歩くと、右手に高浜虚子先生の句碑があります。

「人顔はいまだ定かに夕紅葉」  
虚子

昭和27年11月、当山で催された句謡会の席で、高崎山の紅葉の美しさを詠んだもので、碑文は先生の自書です。



## 異動

楽猿案内係 木本 智

2007年9月10日付けで保全業務係に異動することになりました「木本 智」です。これまで6年5ヶ月楽猿案内係にてサルの生態調査やガイドを行ってきました。振り返れば、記憶に新しいA群とC群の争いや、出産シーンに立ち会えた事、またサルの子育てから恋愛等サル社会に身を置き観察できたことに感謝します。C群の婦人会長の息子「オウジ」C群「そりこみ三兄弟」現役最高齢B群αオス「ゴルゴ」等、今後の動向が気になるサルの観察が出来なくなる事は残念ですが、こたしきべつ個別識別で覚えたサルたちの顔は、これからも忘れないようにしたいと思います。



木本 智



楽猿案内係 但馬 孝光

4年ぶりに楽猿案内係に復帰しました「但馬 孝光」です。C群のなつかしいオスたち、「ゾロ」「ベンツ」をはじめ、顔ぶれはほとんど変わってないけどみんなそれなりに歳をとったような気がします。B群は「ゴルゴ」が最高齢ということで頑張っていました。オスサルたちに負けなように頑張っていきますのでよろしくお願いたします。

## New Face登場!

楽猿案内係 種村 将

はじめまして。「種村 将」といいます。高崎山の入職14年目にして初めて案内係に配置されました。サルの生態等は高崎山の職員ですから名義としてもっていますが、今は顔と名前を覚えることに奮闘中です。これからは来園された方に喜んでもらえるような案内係を目指して頑張ります。



種村 将

大分市内の小学生は入園料が無料です。名札を見せて窓口にお申し出ください。

ご意見・ご要望をおまちしています



国立公園

高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1

Tel.097-532-5010 Fax.097-536-2500

<http://www17.ocn.ne.jp/~takasaki/>